

金窪義孝 幼名 陸軍軍人。安政六年四月六日陸國共八城郡笠間表町  
 生れ、明治三十五年一月二十七日歿（八五—九〇二）。幼名金太郎。幼  
 少次坊主として牧野藩邸に仕へ、藩黨時村白館に學ぶ。明治七年陸軍に  
 入り、乃木希典少佐の配下となる。西南役とは谷千城少將の下で、陸  
 軍軍団團下の熊本城に籠城。十二年士官學校に入り、十五年歩兵少尉  
 に任官。十八年陸軍大學校入校、プロシア陸軍少佐メツケルの薫陶を  
 受く。日清戦争に従軍し、二十一年陸軍二等監督（主計少佐）、大阪  
 を經て翌年小倉の第十一師團監督部第一課長に補せられ、在任中病死  
 した。

當時同師團軍醫部長森林太郎（鷗外）ほどの最期を看取られたことが  
 「小倉日記」に記載せられてゐる（おほ同日記の八一二十六日。自筆白  
 多し金窪純命す。このあるのは、二十七日の誤りとみふ）。また明治  
 七年から歿年に至る日記を遺し、「陸軍二等監督金窪義孝日記」（平  
 成十四年八月—十九日金窪敏知編刊）として出版、息定次の「小倉日  
 記のこゝろ」を附載してゐる。他に、金窪敏知著「陸軍二等監督金窪義  
 孝傳」（昭和五十七年刊）がある

